



八幡小だより

北九州市立八幡小学校
校長 田頭 麗宏



新型コロナウイルス感染症拡大への対応について

報道等でご存知の通り、全国的に感染拡大が続いています。また市内でも同様です。とくに子どもたちの感染が目立っており、先週金曜日を例にとると、市立学校約200校のうち、学年閉鎖が3校（5学年）、学級閉鎖が69校（117学級）でした。クラスターの発生が疑われる相当数の感染者が明らかになった学校もいくつかあります。本校では、今日から1学級が閉鎖をしており、3学期に入って3回目の措置になります。ただし、陽性児童の判明や、それに伴う学級閉鎖の時期が離れており、単発の対応に終わっています。集団感染（クラスター）ではありません。

本日現在、市教育委員会の通知による措置は以下の通りです。

- ★ 陽性が判明した児童が感染可能期間に登校していた場合、3日間の学級閉鎖（判明の翌日から）。
- ★ 閉鎖中に陽性が判明した児童が2名以上になれば、学級児童の一斉PCR検査を実施（結果が判明するまで学級閉鎖を延長）。
- ★ 陽性が判明した児童が5名以上（クラスター疑い）になれば、7日間の学級閉鎖。

現在、PCR検査受検まで、また受検後の結果判明まで相当の時間がかかっていることから、学級内に複数の陽性者が判明するまでは一斉検査をせず、まずは学級閉鎖をして、その間に子どもたちの健康状態を観察するようになっています。ですから、学級閉鎖をしたクラスの子どもたちが全員、濃厚接触者に認定されたというわけではありません。濃厚接触者は、行動歴などから別途確認するようになっています。



また、ご家族の体調が悪くなってPCR検査を受検する場合など、児童が自宅待機して長期（感染可能期間）に登校していなければ、その後児童の陽性が判明しても学級閉鎖をしないことがあります。以前もお知らせした通り、感染可能期間と最終登校日の関連が大きいと言えます。ですから、集団感染を予防する手立てのひとつとして、ご家族の体調がすぐれない場合などには、基準通り必ず登校を控えていただきますようお願いいたします。

幼稚園や保育園で陽性者が出て休園する場合などにも、濃厚接触者が特定されるまで、小学生のきょうだいの登校は慎重にご判断いただけたら幸いです。もちろん、そうした事情の有無にかかわらず、現状から判断し、登校させること自体を控えたい、というお考えがあれば遠慮なく申し出てください。その場合も、オンライン授業を受ければ出席扱いになります。（学級閉鎖中は「出席停止」です）

なお、学級閉鎖中はもとより、上記のような事情で登校できない、していない児童への指



導は、原則オンラインで行います。1年生は、現在タブレット端末が全員分配当されていないので、必要に応じてお渡ししています。教科等によってはオンライン授業に適さないものもありますが、可能な限り「学びを止めない」取組を行っています。先が見えないという不安はありますが、とにかく、手洗いや消毒、3密防止などの感染対策を「当たり前」を「当たり前」に続けていくことが大切だと考えています。ご家庭でも、どうぞよろしく願いいたします。合わせて、このことについての連絡事項はもとより、ご心配な点やご不明の点があれば、早めに学校にお知らせくださいますようお願いいたします。

今年も「できる形」で続けた 体カアツフ週間

1月17日からの2週間に「体カアツフ週間」を設定し、なわとび運動に取り組みました。一昨年までは、ランニング中心でしたが、マスクをした運動負荷の大きさから、昨年度からなわとびに切り替え、中学校の運動場と本校体育館を使って学年ローテーションを組んで実施しました。間隔をあげるなどの感染対策も行いました。



毎年のことながら、15分休みになると寒さに負けずがんばる子どもたちの姿を見ると、本当に頼もしく、うれしくなります。制限の多い中ですが、伝統的に続けている取組のよさを生かすことは大切だと考えています。